

# 居場所のない女性に食事・住居支援

居場所のない若い女性を支える、北海道旭川市（人口約33万人）の会社員Yuki（ゆき）さん（28）。SNSで相談に乗り、安心して過ごせる場所や食事を無償で提供するなど、悩む女性に寄り添います。

（林直子）



「NOLIMIT旭川」代表 Yukiさん(28)

## 北海道旭川

支援が届きにくい10代後半から20代の女性の手助けをする団体「NOLIMIT（ノリミット）旭川」を、2020年12月に設立。生きづらさや困難を抱える約40人から、相談をうけてきました。市内のイベントスペースで食事を無料提供。風呂などを備えた住居です。当初はYukiさんの自宅に泊めてい



セカンドハウスのリビング

# 変わるべきは困難生む社会

ましたが、21年に中古物件を自費で買い、専用の住居にあてました。必要経費は寄付でまかさないです。

## 風俗店に避難

旭川市で育ったYukiさん。「見えづらだけで、助けが必要なのはたくさんいます」と話します。自然が過酷なうえ、逃げ場になる24時間営業の店も少ない同市。居場所を失った若い女性の中には、同市や札幌市の寮付きの風俗店で働いたり、泊めてくれる人をSNSで探したりする人もいます。「そこで性被害にあうこともあります。気軽に頼れる安全な居場所や、相談相手が必要です」

## 学びから確信

自身は育児放棄され、小学校から学校に通えませんでした。似た境遇の友人は少なくありません。保護先の施設になじめず虐待のある家に戻される人、「親にお金めっちゃ取られるから夜稼げしかないんだよね」ともらす人、18歳で出産し夜の仕事を続ける人。

家を出て夜の店で働き、4年遅れて自力で高校・大学に進学。学んだことで、「苦しかったのは自分のせいじゃなかった」と確信しました。「こうせ変わるらない、とあきらめさせる社会が、この問題を固定化していると思います」

こんなに苦しいのになぜ誰も助けてくれないうのだからという怒りが、Yukiさんには

虐待の経験は今も乗り越えていません。つらい思いがあるからこそ、つらい人を支えたいと願います。

ありました。

公的な避難先として、売春防止法にもとづく一時保護所がありません。しかし、入所の要件が自治体ごとに違うほか、外出規制や集団生活など高いハードルがあります。

そもそも公的支援の多くは日中の電話窓口しかなく、若年層には使いづらい、とYukiさんは指摘します。「私は当事者を変えようと思っていないです。変わるべきは困難をつくっている社会。どんな人でも使いやすいシステムを行政がつくる必要があります」

支援現場の長年の努力が実り、女性支援新法が今国会で成立する見通しです。政治には「現場に近づいて、知る努力をしてほしい」。